
非常識人

エイプリル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

非常識人

【Nコード】

N9191A

【作者名】

エイプリル

【あらすじ】

僕はどこにでもいる普通の人間の中学生だ。もし、一つだけ違うとするなら感謝されるのが大嫌いというだけだろう。

僕はどこにでもいる普通の人間の中学生だ。

橋を歩いていると

「たすけて」

と声が聞こえた。

橋の下を見たら、子供が溺れている。

僕は川で溺れている子供を見るためだけに

橋から飛びおりた。

泳ぎには多少自信がある。

こんな穏やかな川なら、服を着ていても溺れることなんてありえない。

あっというまに、子供の表情が確認できる位置まで近づいていた。

子供は手足をじたばたさせて、必死に助けを呼んでいた。

僕は黙って子供を観察した。

（この子供はいつまで浮かんでられるだろう）とこんな事、常人でも考えたとしても、実際にする人はいないだろう。でも、僕は今やっている。

子供が僕に気づいた。弱々しく手を伸ばしている。僕に助けを求めているようだ。

僕は子供に笑いかけ、手を伸ばした。

子供の目には希望が満ちていた。

僕は差し出された子供の手を掴まなかった。

子供の目は色を失った。

子供は沈んでいく。

差し出された手が沈みきる直前、僕は手を握り、気絶した子供を背負って岸に向かった。

岸には野次馬がたくさんいた。

子供は救急車で病院に連れて行かれた。

僕は結局子供を助けてしまった。

数日後、警察署に呼ばれた。

そこには、テレビカメラや岸で見たときの倍以上の野次馬が警察署を取り囲んでいた。

その中央に助けた子供と親と警察の偉い立場の人がいた。

僕はテレビキャスターに付き添われて中央に進んだ。

野次馬がやたらうるさい。

おもわず、耳を塞ぎたくなる。

助けた子供と目があつた。

「おにいちゃん、たすけてくれてありがとう」
子供が元気いっぱいに笑つた。

僕は子供に笑みを見せて、警察署長の前に立つた。

僕は署長の長つたらしい演説を聞きながし、感謝状を渡された。

カメラが僕に何かしろといっている。

僕はにっこりと微笑んで、渡された感謝状をカメラに向けた。

盛大な拍手が僕をつつみこんだ。

(感謝される筋合いなんてない。こんな空気ぶち壊してやりたい。
さて、どうしよう。……そうだ)

渡された感謝状を目の前で破り捨てた。

その瞬間、この場にいた全ての人の目から色がなくなった。

これでいい。と僕は満足した。

(後書き)

もし、人の好意を受け入れられない人がいるならこんなだろうと思
って書きました。

へたれた文章ですみません。

最後まで、読んで頂きありがとうございました。
よろしければ、ダメだしなどお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9191a/>

非常識人

2010年12月12日14時41分発行